

1. 基本計画作成の趣旨

本町の火葬場は昭和 55 年に開設されてから 46 年が経過し、老朽化が進行しています。現火葬場を長期間利用するためには、大規模な改修工事に多額の費用がかかることから、現施設を運用しながら新たに火葬場を建設することが求められています。また、墓守の後継者不足や地域の高齢化に伴い、納骨堂や合葬墓に対する関心が高まっています。

このため、令和 7 年 6 月から 7 月にかけて町内全世帯を対象にアンケートを実施し、火葬場や納骨堂に対する町民のニーズを把握しました。これを受けて、建設検討委員会を立ち上げ、アンケート結果を尊重しながら火葬場及び納骨堂建設に関する検討を行い、その結果を踏まえて基本計画を策定しました。

2. 将来の需要予測と施設整備規模

1) 現在の火葬数

令和 6 年度の火葬件数は 137 件で、平均日当たり火葬件数は 0.38 件でした。

表 1 令和 6 年度火葬件数

項目	日数	割合	
年間稼働日数	116	100%	
日稼働件数	1 件/日	99	85%
	2 件/日	14	12%
	3 件/日	2	2%
	4 件/日	1	1%



2) 将来の需要予測（火葬数）

今後の死亡者数を予測すると、人口減少に伴い減少していくと考えられます。新火葬場が稼働を始める可能性のある期間（2025-2030 年）においては、年間 114 人の死亡者が見込まれています。この期間の平均日当たり火葬件数は 0.31 件になると予測されます。

表 2 将来の死亡者数推計

年	2020-25 年	2025-30 年	2030-35 年	2035-40 年	2040-45 年
年間死亡者数	123	114	109	107	104

3) 火葬炉数の設定

理論的必要炉数は 1 基となりますが、1 基の場合、故障時や補修・点検時に火葬が出来なくなるため、火葬炉数を 2 基とします。なお、現在も 2 基設置しています。

$$\text{理論的必要炉数} = \text{集中日の火葬件数(上位 3\%の稼働日除外)} / \text{1 基 1 日当たりの火葬件数} \\ = 2 / 2 = 1$$

4) 将来の需要予測（納骨壇等）

年間墓地需要数を、3 つの簡易予測式で算出しました。

$$\text{①年間墓地需要数} = \text{総人口} \times 13 \div 10,000$$

$$= 6,205(\text{令和 7 年 11 月末時点}) \times 13 \div 10,000 = 8.1 \text{ 件} \approx 8 \text{ 件}$$

$$\text{②年間墓地需要数} = \text{総世帯数} \times 4 \div 1,000$$

$$= 3,626(\text{令和 7 年 11 月末時点}) \times 4 \div 1,000 = 14.5 \text{ 件} \approx 15 \text{ 件}$$

$$\text{③年間墓地需要数} = \text{死亡者数} \times 0.2$$

$$= 134(\text{10 年間の年平均値}) \times 0.2 = 26.8 \text{ 件} \approx 27 \text{ 件}$$

上記 3 式を平均して年間墓地需要数とすると、 $(8+15+27) \div 3 = 16.7 \approx 17 \text{ 件}$

このうち、屋外の墓を購入する割合、納骨堂を利用する割合、合葬墓を利用する割合を下表のとおり仮定して年間墓地需要数を算出しました。

表 3 年間墓地需要数

種類	仮定	年間需要数(予測)
墓(屋外)	2 割	3 件
納骨堂	4 割	<u>7 件</u>
合葬墓	4 割	<u>7 件</u>

5) 納骨壇等の整備規模設定

今後亡くなる方が必要とする納骨壇の基数及び個別納骨室受入数を下表のとおり試算しました。

表 4 必要納骨壇数及び個別納骨室受入数

種類	納骨堂(納骨壇)		合葬墓(個別納骨室)	
	12 年間 ^{※1}	32 年間 ^{※2}	12 年間 ^{※1}	32 年間 ^{※2}
年間新規利用件数(仮定)	3	4	4	3
必要数	3 × 12 年 = 36 4 × 32 年 = 128		4 × 12 年 = 48 3 × 32 年 = 96	
	36 + 128 = 164 \approx <u>170 基</u>		48 + 96 = 144 \approx <u>150 柱</u>	

※1：13 回忌まで納骨

※2：33 回忌まで納骨

上記の数に加えて、新たに納骨堂・合葬墓が整備されることで、墓じまい・改葬を希望する方が出てくると考えられます。アンケートの中で、墓じまいを希望する人が多数いました。この数を見込むのは非常に困難なため、まずは計算できる需要数分の納骨壇を整備し、稼働後の利用状況を考慮して、納骨堂増築の必要性を検討することとします。

3. 火葬場基本計画

1) 基本方針

- 1. 遺族や会葬者に配慮した施設**
 大切な故人と心ゆくまでお別れができるやすらかな空間を維持するため、動線や諸室配置に留意します。また、すべての遺族や会葬者が利用しやすいようにユニバーサルデザインを採用します。
- 2. 周辺環境に配慮した施設**
 自主的な公害防止目標値を設定するなどして、周辺環境に調和する施設とします。
- 3. 災害時の事業継続に配慮した施設**
 建築物自体を災害に強くするとともに、停電時でも火葬を継続できる施設とします。
- 4. 持続可能性に配慮した施設**
 ランニングコストに優れた施設、維持管理しやすい施設を整備するだけでなく、将来的な火葬スタイルの変更に柔軟に対応できる施設とします。

2) 整備する諸室

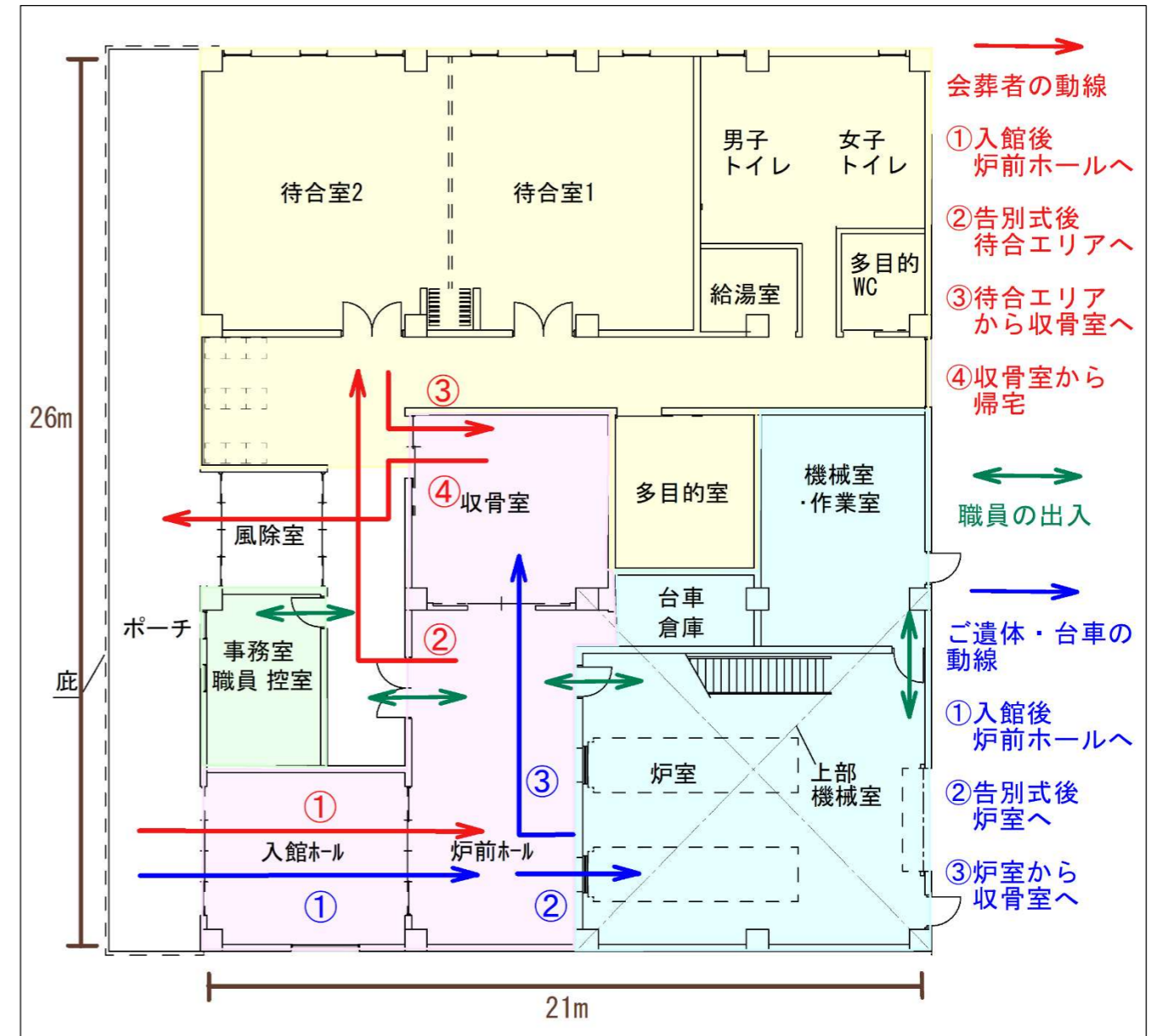
町民アンケート結果等や基本方針を考慮して、以下のような諸室を整備する計画としました。

表5 整備する部屋

部門名	現施設	整備施設
火葬部門 (会葬者通過)	炉前ホール (兼収骨室)	入館ホール、退館ホール 炉前ホール、収骨室
火葬部門 (会葬者非通過)	炉室 機械室 (兼職員控室) 発電機室	炉室 機械室・作業室、台車倉庫 発電機室、電気室 (別棟)
待合部門	待合室 (給湯室有) 2室 トイレ (男、女)	待合室 2室 (可動間仕切) 給湯室 トイレ (男、女、多目的) 多目的室 (授乳室)
管理部門	-	事務室、職員控室

3) 火葬場建屋内配置・動線

火葬場建屋内の配置・動線は基本方針をもとに以下のように計画しました。



4) 火葬炉環境性能

火葬場施設稼働による周辺環境への一般的影響として、大気汚染、悪臭、騒音の3項目が挙げられます。

火葬場施設から発生する大気汚染物質の排出基準、臭気、騒音の規制基準は定められていませんが、廃棄物焼却施設の基準やガイドライン、他施設の事例等を参考に、自主的な公害防止目標値を計画しました。

表6 排ガス

項目 (単位)	公害防止 目標値
ばいじん濃度 (g/m ³ N)	0.03
硫黄酸化物濃度 (ppm)	30
窒素酸化物濃度 (ppm)	250
塩化水素濃度 (ppm)	50
一酸化炭素濃度 (ppm)	30
ダイオキシン類濃度 (ng-TEQ/Nm ³)	1

表7 悪臭（排出口）

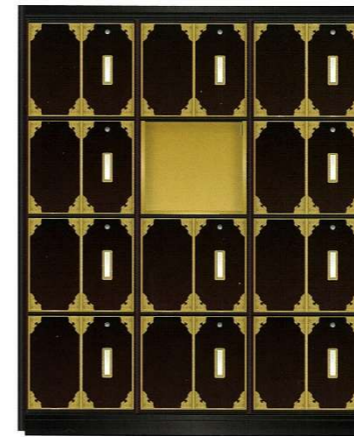
項目	公害防止 目標値 (ppm 以下) 排出口
アンモニア	1
メチルメルカプタン	0.002
硫化水素	0.02
硫化メチル	0.01
二硫化メチル	0.009
トリメチルアミン	0.005
アセトアルデヒド	0.05
プロピオンアルデヒド	0.05
ノルマルブチルアルデヒド	0.009
イソブチルアルデヒド	0.02
ノルマルバレルアルデヒド	0.009
イソバレルアルデヒド	0.003
イソブタノール	0.9
酢酸エチル	3
メチルイソブチルケトン	1
トルエン	10
スチレン	0.4
キシレン	1
プロピオン酸	0.03
ノルマル酪酸	0.001
ノルマル吉草酸	0.0009
イソ吉草酸	0.001

表8 悪臭（臭気濃度）

測定箇所	公害防止 目標値 (以下)
排気塔出口	500
敷地境界	10

表9 騒音

測定箇所	公害防止 目標値 (以下)
敷地境界 (全炉稼働時)	50



ロッカー型納骨壇※1



仏壇型納骨壇※1

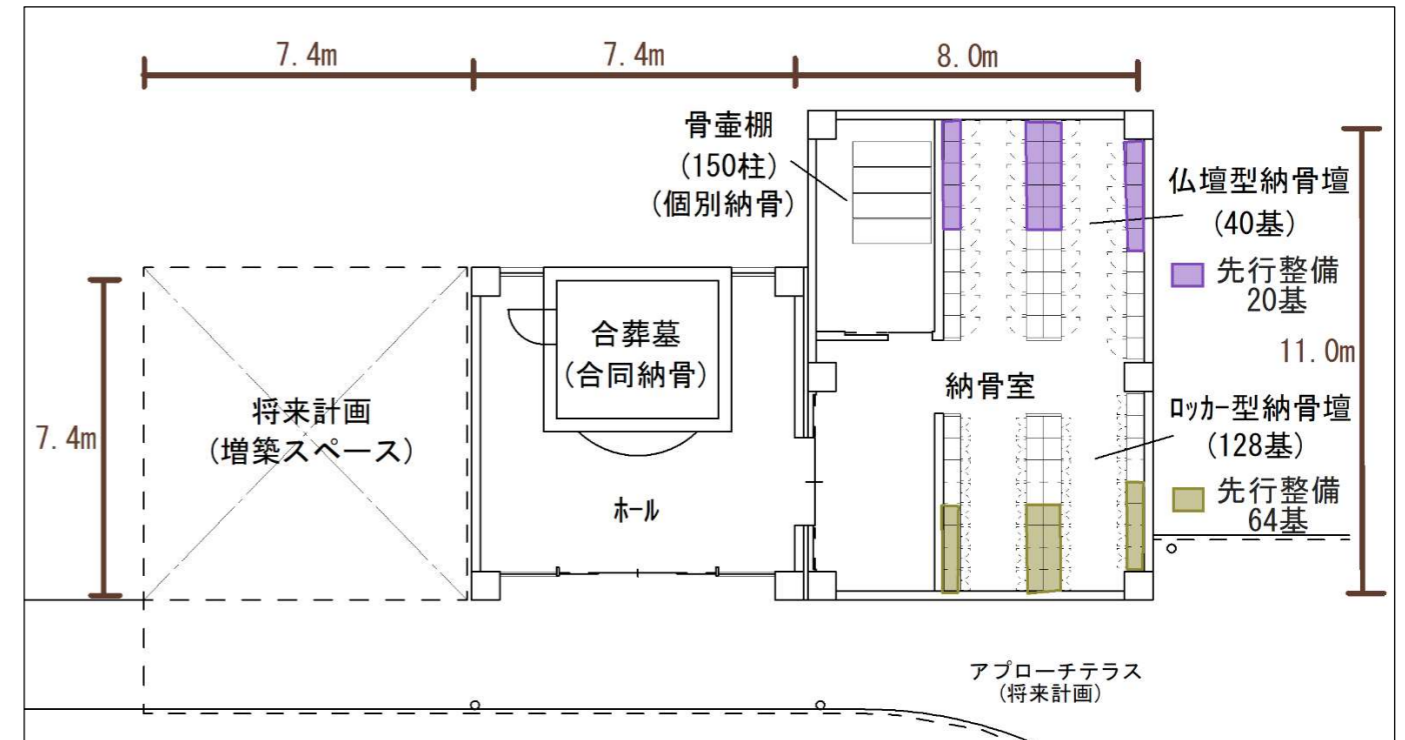


個別納骨イメージ

※1 メーカーカタログより抜粋（イメージ図）

2) 納骨堂内配置計画

納骨堂内の配置は、将来のニーズ変更に対応できるように計画しました。



3) 納骨堂利用者

町民アンケートでは、現在喜界町に住んでいないが利用したいという回答もありました。利用希望者をできるだけ受け入れたい一方で、利用できる人の範囲を限定しないと、すぐに満杯になり、希望する町民が利用できなくなる可能性も考えられます。

そのため、まずは以下の条件を設定して利用希望者を募り、利用状況を考慮して条件を見直していく計画としました。

- ・喜界町内に住所を有する者
- ・過去に喜界町内に住所を有していた者（1年以上居住）

4. 納骨堂等基本計画

1) 納骨壇・合葬墓の種類

町民アンケート結果等を考慮して、以下のように複数の種類を組み合わせ、町民の選択肢を増やすような整備計画としました。

表10 納骨壇・合葬墓の種類

	種類		種類
納骨壇	ロッカー型納骨壇	合葬墓	個別納骨（壺で保管）
	仏壇式納骨壇		合同納骨 (壺から出して他者のお骨と一緒に保管)

5. 敷地内配置計画

現在の火葬場敷地内に新火葬場と納骨堂を整備するため、以下のような配置と手順を計画しました。



6. 事業スケジュール

事業費用が十分に確保でき、最速で進めることが可能な場合のスケジュールを以下に示します。

事業年度	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
火葬場建設工事								
火葬炉メーカー・建築設計事務所選定								
基本設計・詳細設計(土木・建築)								
火葬場建築工事								
火葬炉設備工事						⇒供用開始		
旧火葬場解体工事								
解体工事設計								
解体工事								
納骨堂建設工事								
基本設計・詳細設計								
納骨堂建築工事								
納骨壇設置工事								⇒供用開始



7. 概算事業費・事業手法

1) 概算事業費

現時点で見込まれる概算事業費を以下に示します。(計画内容変更や物価上昇等で変更有)

工事名等	金額(千円)
1.喜界町火葬場整備事業	1,040,000
1-1.喜界町火葬場建設工事	800,000
1-1-1.火葬場建築工事(機械・電気含む) (受電設備室、発電機室含む)	600,000
1-1-2.火葬炉設備工事	200,000
1-2.喜界町旧火葬場解体工事	50,000
1-3.外構工事等	110,000
1-4.喜界町火葬場建設・解体工事設計費、事務費等	80,000
2.喜界町納骨堂整備事業	187,000
2-1.喜界町納骨堂建設工事	107,000
2-1-1.納骨堂建築工事(将来計画分含まず)	90,000
2-1-2.納骨壇設置工事(初回予定分の半分※)	17,000
2-2.外構工事等	40,000
2-3.喜界町納骨堂建設工事設計費、事務費	40,000

※仏壇型20壇、ロッカー型64壇

2) 事業手法

喜界町火葬場整備事業 従来方式(公設公営)
施設設計、建設工事、運営をそれぞれ分離発注
ただし、火葬炉設備工事はDB方式(設計・施工一括発注)

喜界町納骨堂整備事業 従来方式(公設公営)
施設設計、建設工事、運営をそれぞれ分離発注

喜界町火葬場運営方式 通常の民間委託(単年度契約)
(長期包括的運営委託や指定管理者による運営への移行に関する検討を長期的に行っていきます)

喜界町納骨堂運営方式 通常の民間委託(単年度契約)
(長期包括的運営委託や指定管理者による運営への移行に関する検討を長期的に行っていきます)

以上